

大都市生活と田園生活

～どっちが豊かか、考えてみよう～

シンキング・バーズ
歴史科学研究班

人が移動する 歴史が動いて行く

日

本の人口が大都市に集中して困ってしまったのは、たぶん室町時代や江戸時代にもあったことでした。

京の都が戦乱でひどいことになった時に、都に入る人から関銭を巻き上げた日野富子さんは、秩序を乱す人たちから京を守るためにそうしたのに、私腹を肥やしたとか言われて、悪女呼ばわれされることになりました。江戸に出稼ぎに来る人が増えて、人が溢れ過ぎてると感じた水野忠邦さんは、みんな田舎に帰れてやっちゃったために、大鬨騒をかって失脚しちゃいました。

アタシが思うに、これってやっぱし、構造的な問題なんですね。昔の場合、都市に人が集まるのは、飢饉なんかで農村が大変になって、食い扶持を減らさなくちゃって、あぶれた人が村を出たんです。これは、日本だけじゃなく、ほぼ世界共通です。農作業が辛いとか、税の取り立てがひどいとか、それもありかもしれないけど、基本的には食べ物が足りなくて、村を出るんです。都会への憧れなんて、二の次だったでしょう。

じゃあ、今の日本の大都市への人口集中ってどうなんでしょう。昔みたいに飢饉とかないのに、人は大都市に集まります。これって、どう考えたら良いんでしょうね。

●地元が嫌いだっただアタシ

自

分が生まれた町が、嫌で嫌で仕方がないと思ったことがある人、いますよね。アタシも、何を隠そう、その一人です。何が嫌



って、学校でいじめられた思い出が嫌だったし、家族といる時のドン詰まり感が、半端なく嫌でした。とにかく息苦しくって、もうこんな街、一日だっていたくないって思っていました。住んでる人には申し訳ないけど、アタシとこの街の青春の思い出は、とにかく嫌、ぜったい嫌、でした。

アタシは、地元の高校を卒業して、進学のために都会に出ました。もう気持ちは晴れ晴れ、アタシは都会大好き女に変身しました。空気が美味しいって感じたの、アタシの場合は、都会の空気を吸った時でした。窒息しそうな田舎の空気に比べたら、深呼吸できる空気感は爽快でした。

●二つの目線で「移住」を見る

ア

タシは大学で、ヨーロッパ史を専攻しました。地元感漂わせるのが嫌って感性は、若い時には誰でも多少はあると思うけど、アタシの場合は、憧れの対象はヨーロッパでした。日本史も好きでした。でも、そこに留まってちゃダメと思ってました。ナンチャッテ All over the world でしたね。

アタシが大学時代、気になった歴史用語の一つに immigration と emigration があります。日本語では両方とも、「移民」と訳するのが普通ですね。immigration は「他所から入って来た人を地元目線を見た時の移民」、emigration は「住んでる場所を離れて移住することを指す移民」です。移住の受け入れ側と、移住する側のちがいですね。

日本語では同じことばになる二つの単語に出会った時、アタシは、「あっ、そうなんだ」と思いました。当たり前なことなんですけど、人がある場所を離れて別の場所に移り住むと、離れた場所と移り住んだ場所の二カ所で変化が起こります。どんな変化が起こったのかを調べて、こんなふうに変わったって書くこと。歴史って結局、人が移動して何が起こったのかを調べることなんだ。アタシはもう、歴史の本質に目覚めちゃった気がしました。

要するに、アタシが都会に移り住んだことで、都会とアタシの田舎にどんな変化が起こり、どうしてそうなったのか。それだって、立派な歴史研究になるんだもん、でした。

東京経済圏への 人口集中度を検証する

前

置きが長くなりすぎたことをお詫びしつつ、ここからが本題です。

今の日本の大都市への人口集中は、いったい何が問題なのか！！ で、ござんす。

アタシたちはまず、人口集中の実態を調べることから始めました。利用させて頂いた

データは、2015年（平成27年）の国勢調査の市区町村別人口データです。

日本には、三大都市圏と呼ばれる大都市圏があります。東京都を中心とする東京圏、大阪市や京都市を中心とする関西圏、名古屋市を中心とする名古屋圏です。それぞれに経済的な影響力が大きい範囲（経済圏）があり、都府県の境界を超えて強い影響を及ぼしています。

アタシたちは、金本良嗣氏と徳岡一幸氏の「日本の都市雇用圏設定基準」による範囲に従い、該当市区町村の人口を集計しました。その結果が下表です。

東京経済圏は、東京都、神奈川県、埼玉県の一部と千葉県のかなりの部分、茨城県と山梨県の一部を含む広い範囲です。

関西経済圏は、大阪（大阪府全域と奈良県の中北部地域、京都府と兵庫県と和歌山県の一部）、京都（京都府中央部と滋賀県東部地域）、神戸（神戸市とその周辺）の3経済圏としました。

名古屋経済圏は、名古屋（名古屋市とその近郊、岐阜県南部と三重県北部の一部地域）、豊田、四日市の3経済圏としました。

総人口比は、国勢調査時点の日本の総人口に占める各経済圏人口の割合です。

結果を見てアタシたちは、まあ、こんなもんだらう、と思いました。今さら驚くよ

◆三大経済圏の人口と総人口比

経済圏		人口(千人)	総人口比
東京経済圏		35,398	27.85%
関西経済圏	大阪経済圏	12,194	9.59%
	京都経済圏	2,680	2.11%
	神戸経済圏	2,497	1.96%
	小計	17,371	13.67%
名古屋経済圏	名古屋経済圏	5,537	4.36%
	豊田経済圏	484	0.38%
	四日市経済圏	623	0.49%
	小計	6,645	5.23%
三大都市圏計		59,414	46.75%

うな数字じゃないし、へええ、三つ合わせても 50%を超えないんだ、と思いました。ここに、九州北部経済圏（福岡経済圏と北九州経済圏）、道央経済圏（札幌経済圏と千歳、室蘭、苫小牧の各経済圏）を加えると、やっと 52%程度になります。5大経済圏で約5割ですから、まあ、こんなもんです。

ただ、東京経済圏の圧倒ぶりには、やはり驚かされます。日本人の4人に1人以上は、東京都、神奈川県、埼玉県、千葉県を中心とした地域に暮らしていることになり、その数は約 3,500 万人。「東京一極集中」ということばは、眉唾じゃござんせんでした。

●大都市圏の人口推移を見る

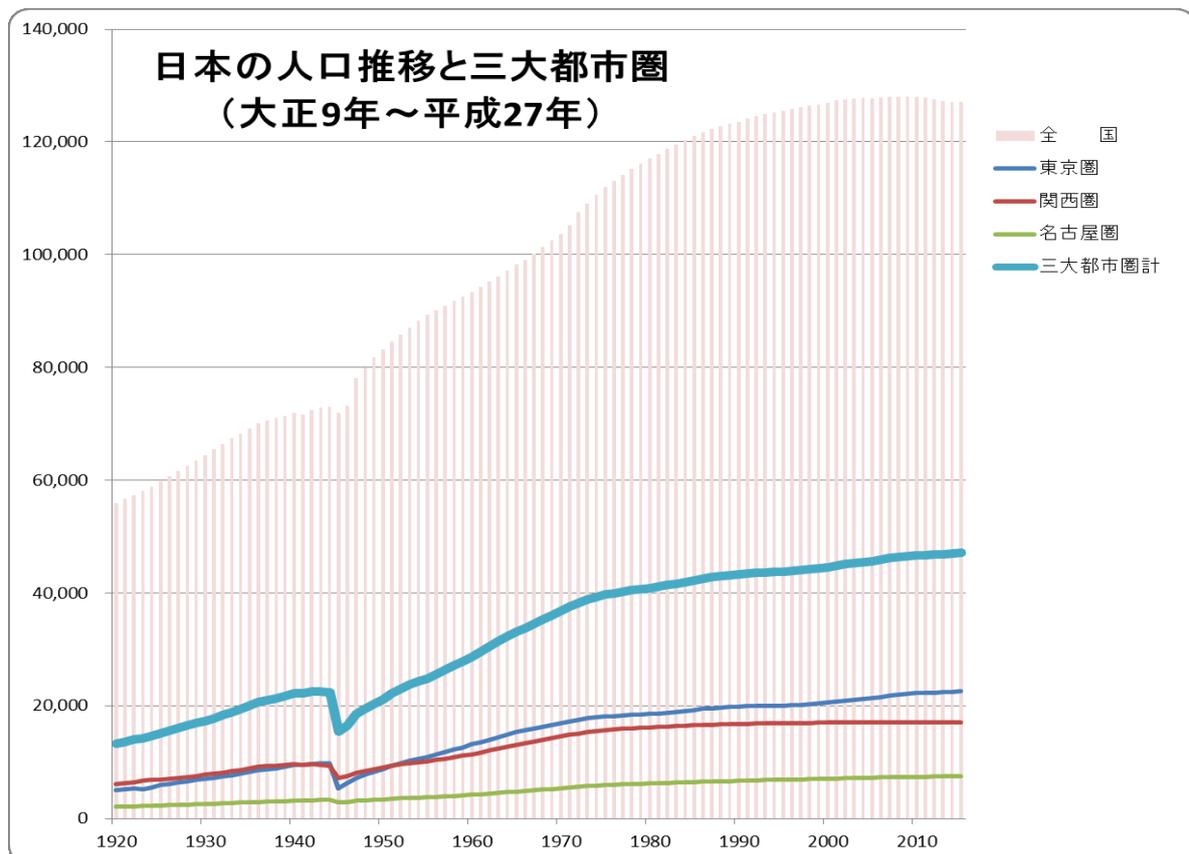
都市に人が集まるといふ現象は、どこの国でも起こることです。歴史を見ても、規模の差こそあれ、人は都市に集まる傾向がある生き物でした。人類の性向なんだから、ある意味ではどうしようもないことなのでしょう。

大

下のグラフは、1920年（大正9年）から2017（平成27年）までの日本の総人口と三大都市圏の人口推移です。終戦時の急激な減少を除いて、日本の人口は、一貫して増え続けました。

都市圏の人口は、やはり終戦時に急激な減少があり、その後は増え続けます。東京圏（東京都と神奈川県）と関西圏（大阪府、京都府、兵庫県）の推移は、戦前は関西圏が優位、戦後の1950年代以降に東京圏との逆転があり、その差は開き続けてます。

総人口に占める三大都市圏人口の割合は、1920年（大正9年）が23.7%、1939年（昭和14年）に30%台になります。でも、終戦の1945年（昭和20年）は21.4%まで落ち込み、20%台が1958年（昭和33年）まで続きました。その後、東京オリンピックを挟んで上昇が続き、1973年（昭和48年）の35.6%がピークでした。それから、地方への人口回帰があつて、減少と横ばいを繰り返します。でも、バブル崩壊後の1999年（平成11年）以降は増加し、2015年（平



成 27 年) には 37% まで上昇しました。

この比較は、歴史的な経済圏設定が難しいため、単純に都府県人口で比較しました。それでも、ここからは、東京圏と関西圏の逆転現象が、戦後になってから起こったことが明らかになります。東京優位が決定的になったのは、東京オリンピック前頃からだったんですね。

●人口集中を考える 3 つの側面

ア

タシたちは、いわゆる「東京一極集中」を、三つの側面から考える必要があると思っています。下記のような側面です。

① 政治的側面

日本の政治の中心が東京にあることを否定する人は誰もいません。問題は、明治時代以来の中央集権体制の是非です。地方分権が唱えられた時期がありましたが、その是非を含めて、これからの日本の政治行政機構を、どうすることが望ましいのか、という問題になります。

② 経済的側面

日本の経済活動は、規模、パワー、水準のすべての面で、東京圏が圧倒的に優位な立場にあります。東京を経由しないと全国展開は難しいと言われるほど、強大な経済力を備えています。人口集中の最大の要因は、この経済力にあると考えますが、これを超える国内経済圏を作るのは、今のところ不可能に近いことです。

③ 文化的側面

日本の文化的発信力は、やはり東京圏が最も優れています。東京の文化的要素は、関西圏が持つ歴史的な日中朝関係を下地とした東アジア的文化に対して、欧米を取り入れたことで初めて優位に立てた和洋文化と言えます。日本各地にある多様な文化に対して、東京が優位なのは、

洋の力に負う部分が大きいのです。

現在の東京は、国内的には政治、経済、文化の三拍子が揃った、圧倒的な強さを誇ってます。アタシは、今から思えば文化的側面に一番惹かれてた気がします。人種交配が可能な文化みたいな、雑居感の楽しさとスゴさがあったんでしょうね。結果的に、それが一人ひとりのパワーになってるんだと思います。

ライフ・スタイルから 田園暮らしを考えると

ア

タシたちがここで検証しようとしているのは、大都市圏に人口が集中すると、何が問題なのか、です。別にイイじゃん、と言う人もいるし、国際的な競争力強化のために、東京はさらにパワーアップすべし、とおっしゃる方がいることも承知しています。正直、アタシ的にも、別にイイじゃん、です。

歴史を考えてみましょう。

江戸時代に江戸に人が集まりすぎて困ったちゃんになったのは、農村が荒廃したからと言われてます。基本的に自給自足だった江戸時代の経済は、農村が荒廃すると食糧不足を招きます。食べ物作る人いなくなったんじゃ、大々的に困ったちゃんです。

明治時代に東京に人が集まりすぎて困ったちゃんになったのは、町のあちこちに貧民窟（スラム）みたいな場所ができちゃったからです。税制が物納から金納に変わって、お金なんてないよの農民とか、サムライ崩れの平民とかが集まって、もうメッチャひどかったみたいですね。「ボロは着ても心の錦」って、バンカラやって威張るの、

アタシ的にはひどすぎ、です。

1960年代に東京に人が集まりすぎて困ったちゃんになったのは、通勤ラッシュとか住宅不足とか、もう都市のキャパ超えちゃう一步手前まで行ったからです。戦後の名残りもまだあって、路上生活者とか、公園で暮らしてる人とか、白衣の傷痍軍人とかもいました。「金の卵」の上京ラッシュが、それに拍車をかけたって感じかな。

じゃあ、今はって言うと、都市側からの問題が、はっきり見えて来ないんですね。保育園が足りないとか、格差が広がってるとか、奨学金の返済問題だとか、高齢者の自宅介護だとか、個別にはいろいろ言われるけど、根本的な都市問題とは言い切れない気がするんです。だって、食糧供給が危機的じゃないだろうし、スラムばかりの街じゃないし、通勤ラッシュや住宅不足も、昔に比べたらずっと緩和されたと思います。何が問題なの？ ですよ。

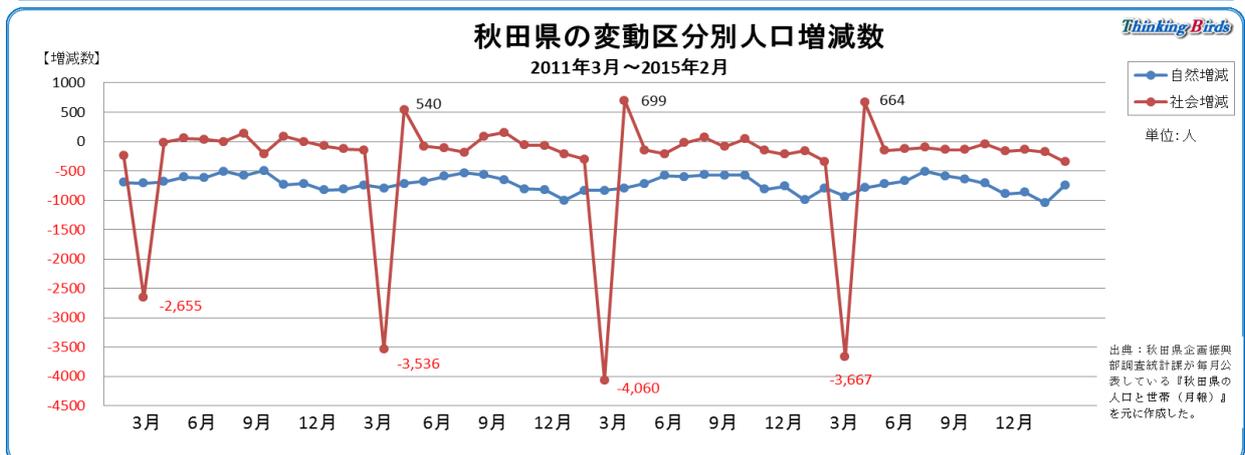
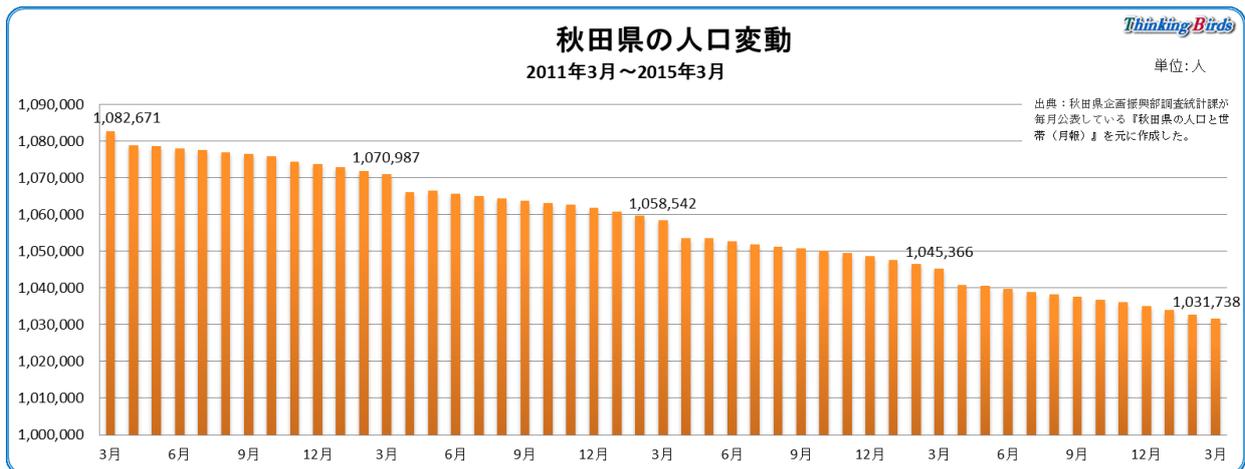
結局、地方が困ってるのを都会のせいにして問題化してるだけでしょ、って、アタシが都会に住んでたらそう言います。都会に出なくても良いようにしてみよ、やってらんないから出て来んよ、って。

●出て行かれる側から見る

そ

ここで考えるのが、immigration と emigration のちがいです。immigration が増えると、階層分岐と圏域拡大が起こります。歓迎される immigration (有能な人材や有用な人材) と、それ以外 (一般的な移住民や避難民など) が別れ、結果、格差拡大の温床になりがちです。圏域拡大は、圏域生産増と圏域負担増が並行して起こり、収支バランスの流動性が、極めて高くなります。良い時は大勢の人が良いけど、悪い時は影響を受ける人がものすごく増えます。

下のグラフは、逆の立場から見たもので



す。アタシたちが3年ほど前に検証した東北地方の人口変動のうち、秋田県の人口変動を月別に表してます。下にあるグラフを見てほしいんですが、毎年極端に減っている月がありますね。「社会増減」のグラフで、人の移動を表してます。出て行った人が極端に多い3月、進学や就職のためね、ってすぐにわかりますよね。これが、emigrationの側から見た現象です。若い人が少なくなるんだから、地域力が衰退して行きます。

こういう構造は、アタシたちの検証では、東北地方全域で見られました。たぶん、全国の多くの県で見られる構造と考えてます。

学ぶ場所や働く場所を求めて、若い人が地域を出て行くっていう構造は、「東京一極集中」の3つの側面でお話したように、パワーバランスの圧倒的な差が大きな原因です。秋田県の方には申し訳ないけど、東京圏と比べて、政治的、経済的、文化的に優位に立てる要素は、残念ながらほとんどありません。アタシたちが暮らしている岩手県だって、似たようなものです。

この構造を何とか解消するために、企業の工場誘致とか、高速交通網の整備とか、いろんなことをやって来たことはわかります。お役所の方は、努力して来たんです、って言います。でも、ダメじゃん、なんです。全然解消してないじゃん、です。やってられないじゃん、です。

●憧れ大きい田園ライフ

ア タシたちは、東京一極集中は、地域格差を広げるだけでなく、何かが起こったら4人に1人の日本人が影響を受ける人口配置って、やっぱりイビツと考えてます。その弊害を解消するためには、分散型地域経済圏の創出がどうしても必要、と提唱します。ある分野やある商品群の中心化戦略

っていう感じです。「〇〇と言えば■■」戦略です。

東北地方の場合、農業と水産業をキーにするしかないと思ってます。単なる食糧生産基地という役割だけじゃなく、「6次産業化」とかいうことばもあるように、自律的産業創造が、どうしても必要なんですね。

日本の場合、ヨーロッパとちがい「豊かな農村、貧しい都会」というイメージが希薄です。商工業重視政策が長く続いたため、その弊害で「豊かな都会、貧しい農村」が定着してます。アタシたちは、それをひっくり返したいんです。

「豊かな農村」を実現するためには、政治的側面、経済的側面、文化的側面の3つの要素で、レベルアップが必要です。政治的側面では、政府の政策的配慮が必要です。経済的側面では、農業者の努力だけに頼らない商品開発や流通ネットワークの見直しが必要です。そして、文化的側面では、伝統にばかり拘らない新機軸の価値（ライフスタイルを含む）の創出が必要なんです。

そうすればきっと、っていうか絶対、「憧れの田園ライフ・モデル」が、できるはずですよ！ だって、今の日本人がホントに求めているものって、そういうライフ・スタイルだって、アタシは確信してるからです。

豊かな自然に囲まれて、美味しいものを毎日のように頂きながら、お金に困らず、それなりの知的水準の人たちといっしょに、楽しく生きて行ける。そういう生活って、憧れませんか？

アタシたちは、憧れのライフ・スタイルを、たくさんの方が実現してくれるのを後押しするために、こんな文章でごめんなさいけど、ガンバってます！！

結局、アタシは、大嫌いだっただ自分の生まれた土地を、大好きな土地に変えてみたいんです。

※参考にさせて頂いた資料)

◆総務省統計局

『平成 27 年国勢調査人口等基本集計』、同『我が国の推計人口（大正 9 年～平成 12 年） 第 5 表』、同『長期時系列データ（平成 12 年～22 年）

◆秋田県

秋田県企画振興部調査統計課『秋田県の人口と世帯月報』2011 年 3 月 1 日現在～2015 年 3 月 1 日現在の各推計値

◆その他

金本良嗣・徳岡一幸著『日本の都市圏設定基準』（2002 年）、『都市雇用圏コード表 2010 年基準』<http://www.csis.u-tokyo.ac.jp/UEA/index.htm>
中川清編『明治東京下層生活誌』（岩波文庫、1995 年）、竹内宏著『昭和経済史』（筑摩書房、1990 年）ほか

シンキング・バース新書**大都市生活と田園生活**

2018 年 8 月 25 日（初版）発行

著 者：シンキング・バース
歴史科学研究班

発行者：遊佐 芳泰

発行所：シンキング・バース

〒021-0821

岩手県一関市三関字神田 1 0 5 番 5 号

電話／F A X 0191-23-0724

※この論考の著作権は、図表を含めてシンキング・バースに帰属しています。複写、無断転載、無断転用は固くお断りします。